

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第8号

令和6(2024)年11月22日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 11月下旬～12月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠
- 現在の発生量は少ない。(－)
 - 向こう1か月の気温は平年並か高く(±～+)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並の見込み(±)。
- (3) 対 策
- 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
 - 予防を主体に、シグナムWDG(RACコード F:11、7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比165%、株率：平年比176%)。(±～+)
 - 向こう1か月の気温は平年並か高く(±～+)、日照時間はほぼ平年並の見込み(±)。
- (3) 対 策
- ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいため、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考
- [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 果菜類 コナジラミ類(トマト：黄化葉巻病(TYLCV)、黄化病(ToCV)・きゅうり：退緑黄化病(CGYV))

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- トマトでは、現在のコナジラミ類の発生はやや多く(±～+)。
 - きゅうりでは、現在の発生量はやや多い。(±～+)
 - 向こう1か月の気温は平年並か高く(±～+)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並の見込み(±)。
- (3) 対 策
- ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
 - 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
 - ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - 耐病性品種を作付けた場合でも、コナジラミ類を防除する。
- (4) 備 考
- [防除のポイントNo22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- すずかび病の現在の発生量は多い。(＋)
 - 向こう1か月の気温は平年並か高く(±～+)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並の見込み(±)。
- (3) 対 策
- 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 - 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - 予防を主体にアミスターオプティフロアブル(F:11、M5)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 掘
- 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 148%、葉率：平年比 333%）。(±)
 - 向こう 1 か月の気温は平年並か高く（±～+）、降水量はほぼ平年並（±）、日照時間はほぼ平年並の見込み（±）。
- (3) 対 策
- 施設内が多湿にならないよう適切な換気を行うとともにかん水量に注意する。
 - 草勢低下は発生を助長させるため、適正な肥培管理を行う。
 - 予防を主体にリドミルゴールド MZ (F: M3, 4) 等を散布する。

6 にら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 掘
- 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 100%）。(一～±)
 - 向こう 1 か月の気温は平年並か高く（±～+）、降水量はほぼ平年並（±）、日照時間はほぼ平年並の見込み（±）。
- (3) 対 策
- 施設内が多湿にならないよう、日中の気温の高いときに喚起する。
 - 捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
 - 発生初期に、セイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を散布する。

7 野菜類 (いちご等)・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 掘
- 11 月第 2 半旬までのフェロモントラップによる誘殺数はやや多い。(±～+)
 - 現在の発生量は、いちごでは多い。(+)。
 - 向こう 1 か月の気温は平年並か高く（±～+）、降水量はほぼ平年並の見込み（±）。
- (3) 対 策
- 定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるため、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アザミウマ類	やや多	やや多	きゅうり	褐斑病	多い	多い
	アブラムシ類	やや多	やや多	にら	アザミウマ類	やや少	やや少
トマト	灰色かび病	少	少	きく	ハダニ類	やや少	平年並

季節の病害虫防除対策

○水稲 越冬害虫

- 再生稲（ひこばえ）は、縞葉枯病（媒介昆虫：ヒメトビウンカ）、黄萎病（媒介昆虫：ツマグロヨコバイ）の媒介虫の増殖源及び病原の獲得源になる他、斑点米の原因となるイネカメムシの一時的な生息場所となるため、早めに丁寧な耕起を行いましょ。

○いちご アザミウマ類

- 11 月頃までに野外から侵入したアザミウマ類は、ハウス内で生存し、春先の被害の原因となります。花をよく観察し、その 1 割以上にアザミウマ類が認められる場合には、薬剤防除を行いましょ。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- 令和 6 (2024) 年 10 月、栃木県内で初めてトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺が確認されました（[令和 6 \(2024\) 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号](#)）。本県においては、本種によるトマトやなすへの被害は確認されていませんが、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょ。

○果樹類 病害

- 整枝・せん定作業時には、罹病枝を取り除くか被害部を削り取り、切口にゆ合剤を塗布しましょ。また、落葉は様々な病害の伝染源となるため、適切に処分しましょ。

農薬の安全使用等

○薬剤抵抗性発達の抑制

- 薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょ。

○「栃木県農薬危害防止運動」実施中（令和 6 年 11 月から令和 7 年 1 月）

- 農薬は適正に管理しましょ。また、農薬を使用する際には、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防止しましょ。

1か月気象予報（予報期間11月23日から12月22日 11月21日 気象庁発表）

- ・向こう1か月の気温は、期間の前半を中心に寒気の影響を受けにくいいため、平年並か高いでしょう。
- ・平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	40	40
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。



～栃木県からのお知らせです～

11月～1月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ・農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょう！